

第6章 館長意識の継続性と世代交代に関する分析

「小さな博物館」の活動の流れ(図6-1)の中で、活動の継続性について考えると、「館長意識の継続」と「世代交代」という2つの課題に突き当たる。この章では、まず、館長意識の継続性に関する分析を、先行研究に用いられた役割形態類型から行う。次に、世代交代に関する分析を博物館の構成要素の違いによって分類した構成要素類型から行う。

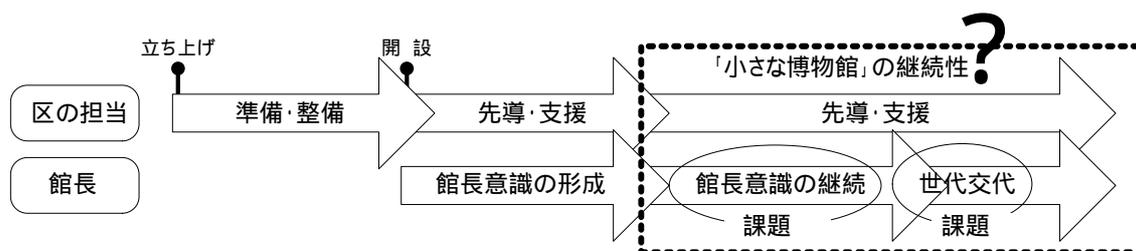


図6-1 「小さな博物館」の活動の流れ

6-1 館長意識の継続性に関する分析

この分析では、各博物館が持つ役割形態による館長意識の継続の傾向を明らかにするために役割形態類型を用いる。

表6-1 役割形態類型

型名		わざ単独型	わざ関連型	展示中心型	展示販売型	関連収集型	趣味収集型
		2館	5館	4館	5館	2館	4館
館長継続	9館	能面	羽子板	相撲写真	べっ甲 木彫 足袋	木造建築 建築道具	古伊万里
館長交代	5館	—	小林人形 乾燥木材	軟式野球 合金鋳物	金庫と鍵	—	—
閉館	8館	伝統木 彫刻	タキナミ 硝子の本	石材	はんこ	—	ライター 千社札 おもちゃ
休館	1館	—	鈴木木工	—	—	—	—

なお、館長意識の継続性を明らかにするために、20年間同じ館長が運営し続けている館長継続型の9館に焦点をあて、館長一代の期間における館長意識に注目する。この9館を役割形態で分類すると、表6-1の色つき部分のように分類できる。該当する博物館数が少ないことに留意しながら考察を行う。

6-1-1 役割形態からみた館長意識

(1) わざ単独型：能面博物館

能面博物館の館長の職業は大工である。しかし、棟梁になって実際に大工の仕事をしなくなったことを契機に、趣味で能面作りを始めた。4年ほど修行をつんだ後は、仕事の一環として、新築の家に置くための能面を作っていた。博物館ではその作品を展示したり、作業場を公開している。93年の館長のコメントは以下のとおりである（表6-2）。

表6-2 93年における能面博物館の館長のコメント

質問内容	コメント
「小さな博物館」のはじめの印象	<ul style="list-style-type: none"> ・区のためになるものなら。 ・とくに抵抗はなかった。
仕事やコレクションに対する気持ちの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・変わらない。
来館者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい。
波及効果としてトクしたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・メリットはあった。 ・建築家だから、新築した家に能面をひとつ置いてくるようにしている。 □注文が増えた。 ・競合している場合には、この博物館に連れてきてどれかひとつあげるようにしているというたいていは家に注文がくる。 ・口コミで、次回はうちも、ということになった。 ・仕事へのつながりがある。
波及効果としてソンしたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・とくにはない。
博物館を続ける上での不満な点	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少し手当がないものだろうか。 ・電気代（クーラー）にもならない。
今後の博物館運営や展示方法に関する希望や要望、あるいは夢や理想	<ul style="list-style-type: none"> ・とくには無いけど、できればもっと宣伝して欲しいぐらい。 ・月に10人ぐらいではしょうがない。もっと来て欲しい。 ・趣味でやる人が少ないのかな。
博物館の継続意志、世代交代	<ul style="list-style-type: none"> ・続けるつもりである。

86年から93年は、館長という役割をなかなか受容できず、職人と館長の二重の役割が重荷になっているという傾向が出ていた。93年には、趣味に対する気持ちの変化が見られなかったが、05年には、「自分が作ったものを見てもらうことは有難いと思っている。（能

面:05)」といった誇り・自信に関するコメントを見ることができる。また、「私ひとりもんだから話ができるのを歓迎している。顔を見たり話をしたりできるのはうれしい。(能面:95)」という交流愉快に関するコメントが増えた。93年時には、「もう少し手当てがでないものだろうか。電気代にもならない。もっと宣伝して欲しい。月に10人ではやっても仕方がない。(能面:93)」といった行政要望に関するコメントが多かったが、05年時には行政要望はなくなった。

93年時には、仕事へのつながりをメリットとして捉えていたが、05年時のコメントからは、来館者との交流を通して、来館者からの評価されることに楽しさを見出していることが読み取れる。また、トクしたこととしても、来館者との出会い・交流を挙げている。

これらの結果より、あくまでも趣味の領域であり、関連する歴史や文化を伝えることが目的ではない。したがって、積極的に来館者との交流を持とうとするのではなく、来館者に自分の作品に興味を示してもらったり、評価を受けたりすることで、徐々に館長という役割を受容していったと考えられる。

また、館長の92歳という年齢に留意すると、仕事の引退後に外部との接点を持ちづらいものである。しかし、この館長にとって、博物館の運営を通して来館者と接点を持つということは、館長自身の生活を充実させることにつながっているという見方もできる。

(2) わざ単独型：羽子板資料館

羽子板資料館の館長は、羽子板作りを70年間も続けている伝統工芸の職人であり、作品を見せるだけでなく作品にまつわる歴史を語るという役割を持つことが特徴的である。館長自身の作品や、自身で収集した昔の羽子板を展示している。93年の館長のコメントは以下のとおりである(表6-3)。

表6-3 93年における羽子板資料館の館長のコメント

質問内容	コメント
開館の経緯	・羽子板作り60年その恩返し
「小さな博物館」のはじめの印象	・ウチにぴったりだと思った。
来館者への対応	・大変である。
来館者あるいは来館者との交流から得たもの	・来館は日本の伝統工芸を知らない人々が非常に多い。
仕事やコレクションに対する気持ちの変化	・誇りをもった。
波及効果としてトクしたこと	・見に来てくれることがうれしい。
波及効果としてソンしたこと	・時間が拘束される。

今後の博物館運営や展示方法に関する希望や要望あるいは夢や理想	・自らの羽子板を残し、幕末・明治・大正・昭和初期位の羽子板を買い集めたいと思う。
博物館の継続意志、世代交代	・後継者により充実させて続けるつもり。

86年から93年は、冷静に館長という役割を受け止めている中で、始めは区への要望も多かったが、徐々に自分の博物館をどうするかという自立的な考えを持つようになっていくという傾向があった。

93年には、「誇りを持った(羽子板:93)」、05年には、「羽子板資料館なんてものは世界にひとつだけ。学芸員は学術的なことは説明できるが、仕事については説明できない。現に70年仕事をしていて説明できるのは私だけ。(羽子板:05)」といったコメントが目立ち、仕事に対する誇りや自信を従来から強く持っている館長である。

来館者との交流に対する姿勢は、93年時には、「対応は大変である(羽子板:93)」や「時間が拘束される(羽子板:93)」といったコメントが多かったが、05年時には、「羽子板の歴史を話すのは社会に対しての勤めでしょう。損だけれども、日本の文化を受け持っているならば人間としての使命である。(羽子板:05)」というコメントが見られる。

特に、外国人観光客との交流に関心が高く、93年時には「日本の伝統工芸を知らない人々が非常に多い」、05年時には「日本人は日本の文化を粗末にしている。外人のほうが日本の文化に関して一生懸命。(羽子板:05)」であると、外国人に比べ、日本人の歴史認識程度の低さを指摘し、問題意識を持っている。

これらの結果より、自分の博物館に対して自信を持ち、館長として、作品を見せるだけでなく作品にまつわる歴史を語るという役割を積極的に演じていることが分かる。また、70年間の職歴から生まれた自信と併せて、博物館での外国人との交流を通して生まれた問題意識を持つことで、館長として「伝える」という使命感を強く抱くようになったと考えられる。

(3) 展示中心型：相撲写真資料館

このタイプの博物館は、館長と来館者とのコミュニケーションより、展示物と来館者のコミュニケーションが中心となるのが特徴的である。相撲写真資料館は、写真館を営む館長が、相撲部屋や相撲協会専属のカメラマンをしていた時代に撮影した写真や記念品等を飾っている博物館である。93年の館長のコメントは以下のとおりである(表6-4)。

表 6-4 93 年における相撲写真資料館の館長のコメント

質問内容	コメント
「小さな博物館」のはじめの印象	・ウチにぴったりだと思った。
来館者との交流で思い出	・地方の中学の修学旅行で見学に来たとき、質問を受け説明し、後日生徒各人からお礼の手紙を頂いたとき。 ・吉葉山がお世話になった吉葉博士のご子息、お孫さんが来館し、吉葉山の写真を見て思い出話をされたとき。 ・昔の力士のご家族がこられて話がはずんだとき。 などたくさんあります。
来館者への対応	・楽しい。
来館者あるいは来館者との交流から得たもの	・資料館を通して多くの知己を得たこと。 ・古い資料を送ってくださったことなど。
仕事やコレクションに対する気持ちの変化	・誇りを持った。
波及効果としてトクしたこと	・見に来てくれることがうれしい。
波及効果としてソンしたこと	・とくにない。
今後の博物館運営や展示方法に関する希望や要望あるいは夢や理想	・とくにない。
博物館の継続意志、世代交代	・後継者がみつかれば続けていってほしい。

相撲写真資料館は、もともと「見ること」が前提の空間であるため、館長への負担は少なく、86年から93年にかけても、無理なく館長という役割を受け入れるという傾向が見られた。

93年には、「来館者の対応は楽しい。(相撲写真:93)」、「資料館を通して多くの知己を得た。(相撲写真:93)」、「見に来てくれることがうれしい。(相撲写真:93)」、05年には、「相撲マニア、愛好家の人とのつながりはうれしい。(相撲写真:05)」といったコメントが目立ち、来館者との交流を楽しんでいることが読み取れる。

また、最近の相撲協会の記録の残し方に疑問を抱き、自らが博物館を通して「相撲の歴史を残したい。(相撲写真:05)」という思いを持ち、相撲に寄与しようと考えている。また、「相撲には寄与しているでしょう。(相撲写真:05)」というコメントも見られるように、その手ごたえを感じていいる。

これらの結果より、相撲写真資料館では、93年の時点から、来館者との交流が活発であり、展示物と来館者のコミュニケーションだけでなく、館長も含む3者間（展示物、来館者、館長）でのコミュニケーションがとられていたことが分かった。館長の相撲に対する思い入れの強さが、館長意識を維持させている。特に、館長自身が専属のカメラマンした後には、相撲協会に対する「広報部がしっかりしていない。このまま記録がなくなっちゃうんじゃないか。」といった問題意識や疑問が、博物館の運営に対する館長の姿勢を支えていると考えられる。

（4）展示販売型：べっ甲資料館，木彫資料館，足袋資料館

このタイプの博物館は、3館それぞれが伝統工芸の職人が営む専門店と併設されているので、博物館を目当てとする来館者と、店舗を目当てとする来客とがあり、館長は「店主」という役割も持っている。店主として来客に対応することと、館長として来館者に対応することが同時に起こるといった特徴がある。93年の館長のコメントは以下のとおりである（表6-5、表6-6、表6-7）。

表 6-5 93年におけるべっ甲資料館の館長のコメント

質問内容	コメント
「小さな博物館」とはじめての印象	・私の家ではべっ甲製品を製作しています。父が昔から持っていたクシ・カンザシなど数多く持っていたため、飾ってみようと思っていました。
来館者との交流の思い出	・お客さん（来館者）に長い時間いすわられて困ったことがあった。
来館者への対応	・大変である。
来館者あるいは来館者との交流から得たもの	・とくにない。
仕事やコレクションに対する気持ちの変化	・変わらない。
波及効果としてトクしたこと	・とくにない。
波及効果としてソンしたこと	・時間が拘束される。
今後の博物館運営や展示方法に関する希望や要望あるいは夢や理想	・とくにない。
博物館の継続意志、世代交代	・私の代までは続ける。

表 6-6 93 年における木彫資料館の館長のコメント

質問内容	コメント
「小さな博物館」のはじめの印象	・おもしろそうだった ・なにを飾ればいいのか分からなかった。
来館者との交流の思い出	・高校生が宿題（課題）で木の物をと、来館し一日お手伝いをして喜んで帰られたこと。
来館者への対応	・楽しい。
来館者あるいは来館者との交流から得たもの	・もう少し（現在の倍くらいに）広くして教室等を行えればよいと感じた。
仕事やコレクションに対する気持ちの変化	・自信を持った。 ・好きになった。
波及効果としてトクしたこと	・売り上げ等はいしたことはないが、仕事の内容を理解してもらえたようだ。
波及効果としてソンしたこと	・とくにない。
今後の博物館運営や展示方法に関する希望や要望あるいは夢や理想	・小さな博物館の特徴として来館者との交流をもっと多くしたい。 ・教室、ファクトリーショップも共存させたい。
博物館の継続意志、世代交代	・私の代までは続ける。

表 6-7 93 年における足袋資料館の館長のコメント

質問内容	コメント
「小さな博物館」のはじめの印象	・ちょうどよかったのではないかな。
来館者との交流で思い出	・修学旅行や地元の子供達がおもしろい。非常に素直に楽しむ。 ・大人は、地方の方がよく見えるが、実はそれは村おこしなどの議員や商工会議所などが来るんで、じゃあ自分の町でも。 ・マスコミにもよく出ている。女優さんたちもよく来る。 ・遠くから訪ねてこられる。 ・大学の先生もくる。人間工学。
来館者への対応	・そんなに大変ではない。
仕事やコレクションに対する気持ちの変化	副読本になっている。まちの職人さん。

波及効果としてトクしたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・売上げが増えたりということはない。 ・宣伝にもなっている。 ・少しでも区の方にプラスになるならやらしてもらいましょう。
波及効果としてソンしたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・あまりソンすることもない。
今後の博物館運営や展示方法に関する希望や要望あるいは夢や理想	<ul style="list-style-type: none"> ・子供さんたちにもっとお相撲さんの資料や足袋の歴史の資料などをたくさんあげたい。 ・専門的な人には専門的なものをあげたいし、子供さんには子供さんへの資料をあげたい。
博物館の継続意志、世代交代	<ul style="list-style-type: none"> ・続けるつもりである。 ・後継者が問題である。娘だからね。 ・20年ぐらいじゃないと一人前にはならないからどうするかなあ。

べっ甲資料館の館長は、93年は、「お客さん（来館者）に長い時間いすわられて困ったことがあった。（べっ甲:93）」、「時間が拘束される。（べっ甲:93）」、05年には、「団体さんで物を盗んでいく人がいた。（べっ甲:05）」という博物館による被害に関する否定低的なコメントが目立つ。また、来館者との交流をこちらから持とうとはせず、来館者への関心も経済効果があったときにのみ注がれる。これは、来館者との交流の思い出として、「高校生が宿題（課題）で木の物をと、来館し一日お手伝いをして喜んで帰られたこと。（木彫:93）」という木彫資料館のコメントや、「修学旅行や地元の子供達がおもしろい。非常に素直に楽しむ。（足袋:93）」という足袋資料館のコメントとは、対照的である。

また、木彫資料館と足袋資料館は「売上げなどはたいしたことはないが、仕事の内容を理解してもらえたようだ。（木彫:93）」、「売上げが増えたりということはないが、宣伝にもなっている。（足袋:93）」のコメントからも分かるように、直接的な経済効果はなくても間接的に効果があることを93年の時点で理解できている。

木彫資料館は、93年に「小さな博物館の特徴として来館者との交流をもっと。教室やファクトリーショップの共存を。（木彫:93）」というコメントが見られたが、実際に今年から工房ショップを併設することになった。「様々な好みがあるんだなあと考えさせられることが多い。（木彫:05）」と来館者との交流の中で作品作りのヒントを見つけるといった活用も見られる。

足袋資料館は、自分の店で足袋の仕立て屋がなくなってしまうために、足袋についての認識が薄れていかないように「まず、知ってもらわなきゃいけない（足袋:05）」という問題意識を持っていたり、べっ甲資料館は「自分の仕事をもっと多くの人に知っていただきたい。（べっ甲:05）」といった思いを持っている。

これらの結果より、博物館を店舗の活動の一部とし、来館者との交流を図ろうとする木彫資料館や足袋資料館のような積極的なタイプと、べっ甲資料館のような消極的なタイプとがあることが分かる。前者の場合は、博物館としての機能を、宣伝や作品作りのヒントを得るなどといった店舗活動にもつながるように活かしているが、後者の場合は、来館者との交流はあまり重視せず、店舗活動とは切り離している。足袋資料館やべっ甲資料館のように業界の危機に直面している場合は、「まずはこういう仕事があることを知ってもらうことが重要」と考える傾向にある。そもそも、店舗活動への効果が期待できるということが、博物館を運営する上で館長意識を支えていると考えられる。

(5) 関連収集型：木造建築資料館，建築道具・木組資料館

このタイプの博物館は、該当する 2 館とも工務店を経営する現役の大工である。この 2 館は大工仲間で、展示物は仲間のを寄せ集め 2 館で分けたものである。つまり、博物館を始めるきっかけや展示内容が類似していることが特徴である。93 年の館長のコメントは以下のとおりである（表 6-8、表 6-9）。

表 6-8 93 年における木造建築資料館の館長のコメント

質問内容	コメント
「小さな博物館」のはじめの印象	<ul style="list-style-type: none"> ・ おもしろそうだった。 ・ ウチにぴったりだと思った。
来館者との交流の思い出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展示品を提供してくれたり参考書などを提供してくれた方がいました。 ・ また、小学校の先生から礼状などをいただきました。
来館者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気にならない。
来館者あるいは来館者との交流から得たもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見ず知らずの方と一時でも人間多岐なふれあいがあるのは不思議な気持ちになる。経済活動を離れて行っているからかも？
仕事やコレクションに対する気持ちの変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 誇りを持った。
波及効果としてトクしたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ とくにない。
波及効果としてソンしたこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ とくにない。
今後の博物館運営や展示方法に関する希望や要望あるいは夢や理想	<ul style="list-style-type: none"> ・ 夏に子供の工作教室などできたらと思う。

博物館の継続意志、世代交代	・先のことは分かりませんが、無理なく長く続けられたら良いと思います。
---------------	------------------------------------

表 6-9 93 年における建築装具・木組資料館の館長のコメント

質問内容	コメント
「小さな博物館」のはじめの印象	・ウチにぴったりだと思った。
来館者との交流の思い出	・なし。
来館者への対応	・楽しい。
来館者あるいは来館者との交流から得たもの	・建築請負業をしているので話が合います。
仕事やコレクションに対する気持ちの変化	・誇りを持った。
波及効果としてトクしたこと	・見に来てくれることがうれしい。
波及効果としてソンしたこと	・とくにない。
今後の博物館運営や展示方法に関する希望や要望あるいは夢や理想	・とくにはない。
博物館の継続意志、世代交代	・私の代までは続ける。

93 年は、「仕事に対して誇りを持った。(建築道具:93)(木造建築:93)」という共通するコメントや、来館者との交流に対しては、木造建築資料館の館長の、「見ず知らずの方と一時的でも人間的なふれあいがあるのは不思議な気持ちになる。(木造建築:93)」といった交流に対するコメントが見られる。

05 年のコメントは「信頼につながっている。(木造建築:05)」 「自分で宣伝するわけじゃないから信頼してもらえる。(建築道具:05)」といった宣伝効果に関するコメントが特徴的である。また、「仲間との話題になる。仲間と交流するための材料である。(木造建築:05)」や、「すみだ住宅まつりに参加して相談員をしている。(建築道具:05)」といった仲間との強力に関するコメントが共通して双方に見られ、開館当初から一貫して交流に対する不満要望がないことも共通している。

来館者との交流は、「辞めた先輩たちが長年使い込んだ道具を展示して残していきたい。あくまでも残してくれた人の気持ちを汲んで展示していくつもり。(木造建築:05)」、「少しでも次世代に分かっていただければ。鉄筋矢コンクリートの家ばかりではない。本当の大工さんがまだ残っているということを知って欲しい。(建築道具:05)」というコメントから読み取れるように、大工の歴史を伝えたいという思いが強い。また、建築道具・木組資料館の館長は、「今はボランティア活動に燃えている。これは博物館を始めてから。(建築道具:05)」と、博物館をボランティア活動にも活用し、館長自身もそこにやりがいを感じながら活動していることが分かる。

これらの結果より、「大工の歴史を伝えたい、知ってほしい」という思いで始めた博物館であったが、仕事への誇りを取り戻すと同時に、時間をかけて継続的に活動することで「信頼」を得るということは、博物館を運営する上で、館長意識を支えていたと考えられる。また、木造建築資料館は、開館当時から「仲間の思いを代表している」という意識を持ち続け、常に仲間からの賛同を意識していたが、この仲間による支えも大きな力となっていると考えられる。建築道具・木組資料館は、独自でイベントへの出張博物館を行うなど、博物館を自分の仕事や生活のスタイルに適応させようとしている。これは、「小さな博物館」の性格上、館長が自由にアレンジできる環境にあるため、館長の想像力や応用力をうまく引き出した形となっている。

(6) 趣味収集型：古伊万里資料館

このタイプの博物館に該当する古伊万里資料館は、仕事とは関係のない趣味で収集したコレクションの数々を展示している博物館である。93年の館長のコメントは以下のとおりである（表 6-10）。

表 6-10 93年における古伊万里資料館の館長のコメント

質問内容	コメント
「小さな博物館」のはじめの印象	<ul style="list-style-type: none"> ・ おもしろそうだった。 ・ 自分が長年集めてきた「古伊万里」を皆さんに見てもらえたらと思った。
来館者との交流の思い出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の知らない人たちに出会い、いろいろな事が勉強になる。
来館者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しい。 ・ 今日とはどんなヒトに会えるかと思うと楽しくなる。
来館者あるいは来館者との交流から得たもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 皆さんの眼が優れているので、自分も一緒に勉強していける。 ・ いろいろなアドバイスが参考になる。
博物館を続ける上での不満な点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区はよくやってくれているなあとオーナーとよく話す。
博物館の継続意志、世代交代	<ul style="list-style-type: none"> ・ 私の代までは続ける。 ・ あくまでも自分の趣味なのでできるだけ長く続けたいと思っている。

93年には、「自分が長年集めてきた「古伊万里」を皆さんに見てもらえたらと思った。(古伊万里:93)」、「今日はどんなヒトに会えるかと思うと楽しくなる。(古伊万里:93)」、05年には、「好きだからやっている。好きじゃなきゃお金をもらってもやれないよ。(古伊万里:05)」、「骨董の好きな人だと話をしても疲れしない。(古伊万里:05)」というコメントが見られる。これらのコメントからも、館長の自己満足の世界であり、自分のコレクションを介して来館者と交流することに生きがいを感じている。その一方で「地場産業じゃないし館長会議で浮く。意見が言えない。自分は他と違うから肩身が狭い。(古伊万里:05)」といった区に対する不満に関するコメントも目立つ。93年の時点では、バイトのコメントではあるが、「区はよくやってくれているなあとオーナーとよく話す。(古伊万里:93)」と区の取り組みに対して評価が高かったことが分かる。

「普通ならこんなにも知り合いはできない。(古伊万里:05)」、「金はなくても心は金持ち、心は豊か。(古伊万里:05)」といったコメントや、「全国の骨董市に友達に誘われていくが、どこに行っても歓迎される。(古伊万里:05)」というように仲間とのつながりや活動の幅も広がり、活動が多岐に渡っていることが分かる。

これらの結果より、以前にヒアリングをした93年は開館直後だったためか、自分のコレクションを見せることができるというだけで満足し、区に対する不満や要望を持っていなかったが、開館から15年近くが経過し、他の墨田区の産業や歴史文化をかんけいの深い博物館との明らかな目的意識の違いに気づき、その違いを配慮してくれない区に対して不満を持つようになったと考えられる。ただ、趣味の領域ではあるがプロ意識を持ち館長役を演じきっている。また、「小さな博物館」に属しているが、館長自身が全国を舞台に骨董の活動を行い、自分自身の力で博物館の存在を広報している。

6-1-2 役割形態類型からみた館長意識の継続性

役割形態類型別に博物館の持つ役割を整理する（表 6-11）と、「小さな博物館」の持つ役割の特徴として、『歴史文化伝達』と『現状作品観察』という 2 つの大きな役割が見られる。この 2 つの役割の他に、職人わざを見せる『技術見学体験』を役割に持つタイプと、収集物を見せる『収集履歴伝達』を役割に持つタイプがある。

『歴史文化伝達』を役割に持つタイプに該当する博物館は、墨田区の産業や文化に関係する職業に携わる職人さんが館長を勤めている。また、『現状作品観察』の役割を持つ対応の博物館では、伝統工芸の職人さんが館長をすることが多い。

表 6-11 役割形態類型別にみた博物館の持つ役割

役割	収集履歴伝達	歴史文化伝達	技術見学体験	現状作品観察	作品展示販売
わざ単独型					
わざ関連型					
展示中心型					
展示販売型					
関連収集型					
趣味収集型					

趣味に関係する展示を行う博物館では、『歴史文化伝達』の役割は持たないが、『技術作品観察』の役割を持つ「わざ単独型」や、『収集履歴伝達』の役割を持つ「趣味収集型」がある。このように、館長の専門分野が職業に関係する博物館と趣味に関係する博物館とは、博物館が持つ役割が異なるため、役割形態類型を職業関係と趣味関係に分類することができる（表 6-12）。

表 6-12 専門分野による分類

分類項目	役割形態の違い	該当する類型
職業関係	『歴史文化伝達』あり	わざ関連、展示中心、展示販売、関連収集
趣味関係	『歴史文化伝達』なし	趣味収集、わざ単独

なお、わざ単独型には、能面博物館のように、趣味として極めたわざを展示する職業関係の場合と、伝統木彫刻資料館のように、生業として極めたわざを展示する職業関係の場合が含まれる。この分析では、能面博物館のみが該当するので、わざ単独型を趣味関係の博物館として分類することとする。むしろ、わざ単独型には、「歴史文化伝達」の役割がないように見えて備わっているから、伝統木彫刻資料館のような博物館は、わざ関連型として捉えるほう適切であると考えられる。

館長の専門分野別にみた館長意識の傾向は、下記のようにまとめられる。

(1) 職業関係：わざ関連、展示中心、展示販売、関連収集

館長の職業柄、歴史の「伝達」や製品の「普及」といった目的意識を持つ傾向にある。そのことによって、使命感を持って館長役を果たし、来館者との交流を通してその目的に対する達成感ややりがいを感じている館長が多い。

このタイプの館長は、わざもしくはコレクションを歴史の流れの一部として継承してきた職人、あるいはコレクターである。よって、継承してきたわざやコレクション、及びそれに関連する歴史や文化を誰かに「伝えたい」とする外交的な意識が働き、博物館は館長が持つ情報の発信地としての役割を担っている。あるいは、長期間に及ぶ博物館の運営のために、負担の少ない博物館運営を追求した結果、仕事との関連性が高くなったという可能性もある。

(2) 趣味関係：趣味収集、わざ単独

職業関係のように「伝達」や「普及」を意識することなく、館長は個人の「楽しみ」や「満足」を重視する傾向にある。

このタイプの館長は、わざやコレクションは、館長個人が習得あるいは所有するものなので、歴史や文化の伝承よりも、趣味を「共有したい」という内向的な意識が働き、博物館は来館者と館長とが趣味を共有するスペースとしての役割を担っている。

このように、館長意識の形成や維持には、館長の博物館に対する姿勢と、それに対する来館者の反応が影響を与えていると考えられる。

よって、館長意識を継続させるための要件は、以下のようにまとめられる。

職業関係の博物館の場合、来館者が、館長の生業に触れ、わざ、もしくは製品に対する理解を示すことが重要である。

趣味関係の博物館の館長意識を継続させるためには、来館者が、館長の趣味に対する興味を示すことが重要である。

また、上記の要件を満たすことができる空間を作る必要がある。

ただし、館長によっては、来館者との交流に対して、積極的なタイプと消極的なタイプがあり、一言に館長といっても、館長という役割に対する姿勢には差異がある。

6-2 世代交代に関する分析

前節では、「小さな博物館」の継続性における1つ目の課題である館長意識の継続性について分析を行った。この節では、2つ目の課題である世代交代について「小さな博物館」の世代交代の現状と今後の動向を分析し、世代交代における要件に関して考察する。

6-2-1 閉館や世代交代になり得る状況

閉館せざるを得ない状況として、NTTブリキのおもちゃ博物館のように、持ち主が展示物を回収する場合や、タキナミグラス博物館や石材資料館のように、会社が倒産する場合、硝子の本の博物館のように、人件費が負担となる場合等が考えられる。このことより、館長（管理者）や展示物、運営母体の『存続』が「小さな博物館」の継続要件に関係すると考えられる。

また、「小さな博物館」は入館料が無料であるため、博物館の運営にコストがかかるとそれが運営母体にとって負担になることがある。よって、経済的に余裕がない場合には、展示の変更以外で日常的にコストが発生するような運営方法を避ける必要がある。

一方で、千社札博物館や伝統木彫刻資料館のように後継者の問題の場合は、館長交代型においても同様に問題となっているが、小林人形資料館を含む館長交代型のように世代交代ができた可能性があったと考えられる。

館長交代型の5館の世代交代の経緯より、小林人形資料館と金庫と鍵の博物館のような、運営母体が家族経営の自営業といった個人の場合と、軟式野球資料室、乾燥木材資料館、合金鋳物博物館のような、運営母体が会社、あるいは組合といった組織の場合とがある。前者は、弟や息子が館長を引継ぎ、後者は、会社、あるいは組合の仲間が館長を引き継いでいる。このことより、世代交代には、個人か組織かという運営母体の違いが関係していると考えられる。

6-2-2 博物館の継続、及び世代交代に関するコメントと現実

93年、05年それぞれにおける館長の博物館の継続、及び世代交代に関するコメントと、実際の継続、及び世代交代の状況との比較を行う（表6-13、表6-14）。

表6-13 93年と05年の継続型の館長コメント

博物館名	93年		05年	
	継続意志	引継ぎ意志	継続意志	引継ぎ意志
館長継続	木造建築	先のことはわかりませんが、無理なく長く続けられたら良いと思います。		息子が協力してくれている。展示物を変えるのも相談しながらやっていきたい。
	古伊万里	あくまで自分の趣味なので、できるだけ長く続けたいと思います。	私の代までは続ける。	65歳になったらたけのこ生活をする。
	羽子板		後継者により充実させて続けるつもり。	せがれが継ぐことになっています。
	絵画	続けるつもりです。		どっちにする仕事場だからさ。私ひとりもんでしょ。誰かが来てくれたらそれでいい。
	ベッ甲	私の代までは続ける。		分からない。
	木彫	私の代までは続ける。		ベッ甲繕工は、材料が入ってきません。そのため、後継者が育っておりません。早く輸入が再開できたらと思っています。
	相撲写真	後継者が見つければ続けていって欲しい。		せがれは分からないけど。相談もしてないけど、息子は忙しくてできないよ。忙しくてぼとんどうちにいないしやっばりできなくなる。
	足袋	続けるつもりである。	後継者が問題である。娘だからね。10年ぐらいじゃないと一人前にはならないからどうするか。	娘もいるけど、嫁に行っても家にはいない。足袋は作らないよ。やっても食えない。
	建築道具	私の代までは続ける。		宣伝兼ねてこれからも伸ばしていきたい。そういうのが好き。
	軟式野球	まず続くとする。続けなければならない。		博物館がなくなることはない。展示物を（移動して）一緒に展示するかも。
館長交代	小林人形		後継者はいない。だからこういうような形にした。この代で終わるでしょう。	特に考えていない。
	合金鍋物		後継者がいれば続けて欲しい。	何とかがんばろうと思っている。自分の体が続く限り。同業者がやっている限りこのまま展示はしていようと思う。
	乾燥木材	ずっと続けるつもり。焼酎石に水だけ。		閉館はない。一応は考えている。なかなかいないけど、時代もどうなるか分からないし。
	金庫と鍵		息子が仕事を継いでいます。おそらく博物館も続けるでしょう。	たぶん、私く館長の長男が引き継ぎ運営していくと思います。

館長継続型のコメントからは、20年を経て館長の年齢が高齢化するにしがたい、全体的に曖昧だった引継ぎの考えが明確になる傾向にある。93年時には「私の代までは続ける」とコメントした館長が多く、世代交代を考えている館長は少なかったが、05年時には「息子が協力してくれている。展示物を変えるのも相談しながらやっていきたい。(木造建築:05)」、もしくは「息子はいるけど、能面はやっていない。自分で終わり。(能面:05)」のように、現実的なコメントが多い。このことより、世代交代の問題に直面する博物館が増えていくことが分かる。

館長交代型の93年のコメントと現実との比較を行うと、軟式野球資料室と金庫と鍵の博物館については、コメントしたように実際の引継ぎが行われている。一方で、合金鋳物博物館では93年の時点では、まだ次の世代への引継ぎの準備は整っておらず、「後継者がいれば続けてほしい」と考えるにとどまっている。また、乾燥木材工芸資料館においては、引継ぎに関するコメントが見られない。このように、館長に明確な引継ぎの意志がなくても、組織の中では館長の意志を受け継ぐ有志によって博物館が引き継がれていくことがある。

表 6-14 93年の閉館型の館長コメント

	博物館名	継続意志	引継ぎ意志
閉館	千社札	5年契約だけれど続けるつもりである。	次男坊はやっていくだろう。
	タキナミ	ずっと続くはず。やめて違うところがあるのか？	—
	ぶりき	会社がある限りやっていくだろう。	—
	はんこ	生涯やりたいと思う。正しい字を教えるということでも効果があります。	—
	ライター	一応続けていくつもり。もと充実したい。	—
	石材	墓石会館がある以上は続ける。	—
	硝子の本	厳しいけれど、持ちこたえれたらやりたい。	—
	伝統木彫刻	まだ3年ですから。私の代までは続ける。	—
休館	鈴木木工	できる範囲内でならやってみたい。	—

閉館型のコメントと閉館した事実とを比較すると、93年時の館長の意志のとおりには実際は引継ぎが行われなかった事例が見られる。千社札幌博物館においては、「次男坊がやってくれよう。」と思っていたが、実際には息子は本業が忙しく博物館を運営する余裕がないために引き継いでいない。また、「続くはず」と思っていたが、タキナミグラス博物館のように会社が倒産してしまい、博物館を続けることができなくなることもある。NTTぶりきのおもちゃの博物館は、「会社がある限りやってくれよう。（ぶりき:93）」とコメントしているが、実際は会社ではなく展示物を持ち主が回収したことによって閉館することになった。このことより、館長の意志とは関係ない、後継者や展示物、運営母体の都合などの影響を受けるために、世代交代は館長の引継ぎ意志だけでは成り立たないということが分かる。

6-2-3 博物館の構成要素

「小さな博物館」を個別に見ると、博物館を構成している要素に違いがあることが分かる。博物館の構成要素とは、「ヒト」・「モノ」・「バ」である（図6-2）。

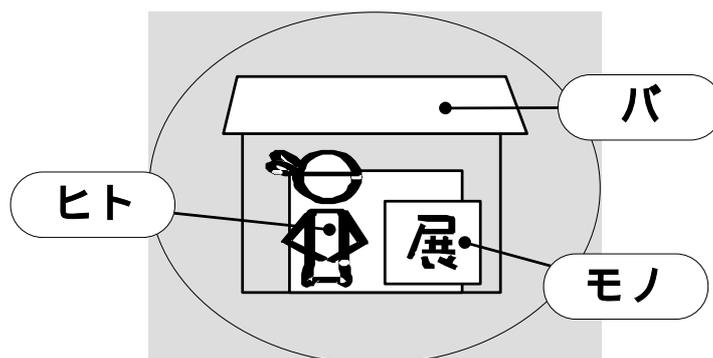


図 6-2 博物館の構成要素

「ヒト」とは、館長のキャラクターであり、職人とコレクターの2タイプに分類できる。「モノ」とは、展示物であり、「ヒト」が職人の場合はわざ、コレクターの場合はコレクションの2タイプがある。「バ」とは、運営母体であり、個人と組織の2タイプがある。個人経営の場合も、館長が組合のような組織に所属している場合は組織とする。

世代交代には、館長の後継者、展示物、運営母体の『存続』が関係していると考えられ、博物館の3つの構成要素のうち、館長の後継者は「ヒト」、展示物は「モノ」、運営母体は「バ」に相当する。

具体的な事例で見てみると、NTTぶりきのおもちゃ博物館は、展示物を持ち主が回収したことが閉館理由であるが、これは「モノ」の存続が世代交代の障害となった事例である。また、タキナミグラス博物館は、会社が倒産したことが閉館理由であるが、これは「バ」の存続が世代交代の障害となった事例である。そして、伝統木彫刻資料館は、息子はサラリ

ーマンで、彫刻のわざを継承していないという理由から閉館している。これは、「ヒト」の存続が世代交代の障害となっている事例である。なお、館長の職人わざが展示内容に該当する場合、博物館を管理する「ヒト」の存続も問題であるが、同時に前館長から受け継いだ「わざ」を保持した「ヒト」の存続も問題となる。

6-2-4 構成要素類型の各特性

各博物館の構成要素（表 6-15）から、「ヒト・モノ」（わざ コレクション）の軸と「バ」（個人 組織）の軸の2軸を用いて、博物館の構成要素の違いによる分類を行った（表 6-16）。なお、館長交代型は、世代交代が行われる以前の状況を扱うものとする。

表 6-15 各博物館の構成要素一覧

	ヒト	モノ	バ
博物館名	館長のキャラクター 専門分野	展示物 コレクション	運営母体・所属
木造建築	大工職人	大工道具	(有)山孝工務店
古伊万里	骨董収集(骨董商)	骨董	個人
羽子板	羽子板作り職人	羽子板	羽子板の鴻月
能面	能面作り職人	能面	個人
べっ甲	べっ甲細工職人	べっ甲	磯貝べっ甲専門店
木彫	透かし彫り職人	木彫	松本彫刻店
相撲写真	写真家	相撲写真	工藤写真館
足袋	足袋仕立て職人	足袋	喜久や
建築道具	大工職人	大工道具	(株)森下工務店
軟式野球	ボール製造(社員)	野球関係・製造工程	ナガセケンコー株式会社
小林人形	人形作り職人	人形	小林人形工房
合金鋳物	鋳物職人	鋳物	江東合金鋳物工業協同組合→個人
乾燥木材	指物職人	指物	乾燥木材工芸株式会社→個人
金庫と錠	錠前に関するプロ	錠前	(有)杉山金庫店
千社札	千社札収集	千社札	林塗装株式会社
タキナミ	ガラス細工	ガラス製品	瀧波硝子株式会社
ぶりき	おもちゃ収集	ぶりきのおもちゃ	N T T 墨田支店向島営業所
はんこ	はんこ作り職人	はんこ	鹿村堂
ライター	ライター収集	ライター	アイビー・インターナショナル株式会社
石材	石造り	石材関連の道具	須藤石材錦糸町店
硝子の本	ガラス細工	ガラス製品	松徳硝子株式会社
伝統木彫刻	伝統木彫刻	木彫刻	大野伝統木彫刻工房
鈴木木工	萬轆轤(木工)職人	木工製品	鈴木製作所

表 6-16 構成要素類型

分類項目	わざ・職人 (パフォーマー)	コレクション・コレクター (インタープリター)
個人・家族	羽子板 能面 ベっ甲 木彫 足袋 小林人形 × はんこ × 伝統木彫刻 鈴木木工 (計 9 館)	古伊万里 相撲写真 金庫と鍵 × 千社札 × ぶりき × ライター (計 6 館)
組織・組合	木造建築 合金鋳物 乾燥木材 建築道具 (計 4 館)	軟式野球 × タキナミ × 石材 × 硝子の本 (計 4 館)

...館長継続型 ...館長交代型 ×...閉館型 ...休館型

(1) 個人/わざ型

このタイプに該当する博物館の館長全員が、個人で経営する専門店、もしくは工房を持つ伝統工芸の職人である。よって、弟子や息子といった後継者が鍵を握っている。このタイプの博物館は、館長の持つわざを直接見たり、館長のエピソードを聞いたりできることが醍醐味であるため、後継者は単に博物館の管理を引き継ぐだけでなく、職人としてのわざも継承しなければならない。つまり、「モノ」よりも「ヒト」の引継ぎの方が、重要度が高いと考えられる。

(2) 組織/わざ型

このタイプに該当する博物館の館長は、会社、もしくは組合に所属する職人である。合金鋳物博物館や乾燥木材工芸資料館のように、組合や会社が運営する博物館と、木造建築資料館や建築道具・木組資料館のように、組合に所属する個人が組合を代表して個人で運営する博物館とがある。このタイプの博物館は、個人/わざ型と同様に、「モノ」よりも「ヒト」の引継ぎが重要である。しかし、後継者が家族や弟子の中にいない場合に、「バ」から「ヒト」を補完することができるという特性を持っている。よって、「バ」が存続する限り「ヒト」を補完し続けることができ、誰かの手によって引き継がれていくので、閉館する

ことはない。ただし、一度「バ」が倒産や解散をした場合、その後に引継ぎができる可能性は低い。

(3) 個人/コレクション型

このタイプに該当する博物館の館長は、個人経営の専門店の一部や、古伊万里資料館のように間借りした空き家を利用して、館長自身が収集したコレクションを展示しているコレクターである。このタイプの博物館は、館長の収集したコレクションを見ることが醍醐味であるため、世代交代の際には、コレクションの引継ぎが重要である。つまり、「ヒト」よりも「モノ」の引継ぎの方が、重要度が高く、あくまでも館長はコレクションの解説役である。相撲写真資料館や金庫と鍵の博物館のように、コレクションが仕事に関係する場合には、家業を引き継ぐ家族の誰かがコレクションをそのまま引き継げばよい。しかし、コレクションが趣味に関係する場合には、個人の所有物なので、館長に引継ぎの意志に左右され、最も引き継ぎの可能性が低い。

(4) 組織/コレクション型

このタイプに該当する博物館の館長は、会社、もしくは組合が所有するコレクションを管理したり、コレクションについて解説したりする組織の中の一人である。このタイプの博物館は、個人/コレクション型と同様に、「ヒト」より「モノ」の引継ぎが重要である。しかし、組織が存続する限り、組織によって引き継がれていくので、閉館することはない。また、館長はあくまでもコレクションの管理者であり、「バ」から「ヒト」は補完することができる。

左記の4 類型の各特性を表 6-17 にまとめた。

表 6-17 構成要素類型の各特性

		「ヒト」館長のキャラクター・「モノ」展示内容	
		わざ・職人 (パフォーマー)	コレクション・コレクター (インタープリター)
「バ」運営母体	個人・家族・自営	<p>「ヒト」の引継ぎがポイント 「ヒト」は息子や娘、弟子が継ぐ 「バ」の存続率は高い</p>	<p>引き継ぎはあまり行われぬ 一代限りが多い 「モノ」の引継ぎがポイント</p>
	組織・組合・会社	<p>「ヒト」の引継ぎがポイント 「バ」が「ヒト」を補完する 「バ」が存続する限り閉館なし</p>	<p>「モノ」は「バ」の所有物 「バ」が存続する限り閉館なし 「ヒト」の重要度は低い</p>

6-2-5 世代交代による類型間の移動

館長交代型の合金鋳物博物館と乾燥木材工芸資料館においては、館長が交代する際、もしくは交代後、運営母体が倒産、解散し、個人で博物館を運営している。このことにより、93年の時点では、組織ノわざ型であったが、05年時点では、個人ノわざ型へと転身している。つまり、「ヒト」や「バ」の変化を契機に、類型間で移動が起こっている（図 6-5）。

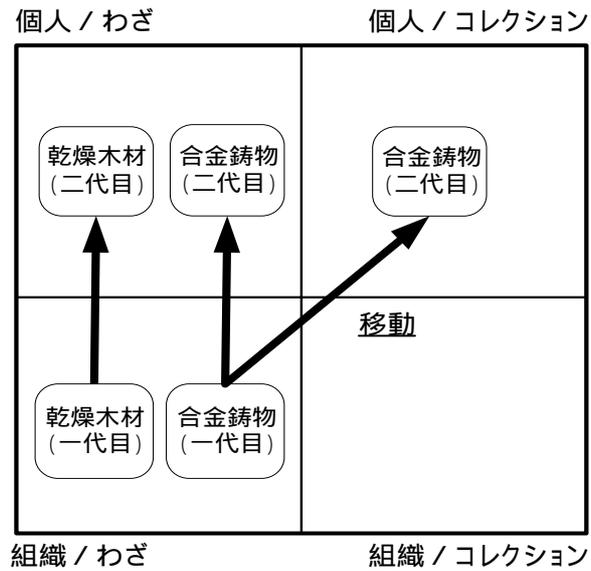


図 6-3 類型間における博物館の移動

事例 合金鋳物博物館

二代目館長の個人宅へ展示場所を移転する際、展示物も移転させたが、その後、二代目が独自に増設した展示物もある。最近では従来のわざに関する展示場に隣接するように、館長の趣味で収集したコレクションの展示スペースができています。

ここでは、館長が交代する以前の組織 / わざ型から、個人 / わざ型に移動している。また、館長の個人的な趣味の展示が今後さらに増設すると、個人 / コレクション型への移動も考えられる。

事例 乾燥木材工芸資料館

二代目の館長は、一代目の館長と同じ会社に所属していた。一代目の館長が亡くなる 4 年ほど前から博物館の運営にも携わっていたこともあり、一代目の館長が死去した後、展示場所も展示物もそのままの状態を引き継いだ。

ここでは、組織 / わざ型であった 93 年の時点から、個人 / わざ型に移動している。

ただ、一代目には「肩書き」があるが、二代目にはない、という違いがある。ここで言う「肩書き」とは、館長の技術を認定するもので、例えば、3M 運動の一つである「マイスター」の認定を受けているかどうかである。「マイスター」の認定を受け、技術を保証されていた一代目と比較すると、二代目は一代目が作り上げた博物館を、一代目が

一代目の作り上げた博物館を「ほんもの」とするならば、二代目の引き継いだ博物館は、世代交代の際に、真正性の度合いが低くなっているとも考えられる。